

[第4回]



GPSSエンジニアリング株式会社

代表取締役 **リチャーズ・フィリップ** 氏



世界に貢献する
「幸福な会社」を目指して

GPSSエンジニアリング株式会社は、サステナブルエネルギー事業を行うGPSSグループの一員として、日本国内で200MWを超える再生可能エネルギーの発電所建設実績があるエンジニアリング会社です。
今後ますます注目されるサステナブルエネルギーの利用拡大をどうすべきか、といったことを含めて、代表取締役のリチャーズ・フィリップ (Phillip Richards) 様にお伺いしました。

「2050年カーボンニュートラル」に向けて

— 昨年10月に、菅総理は「2050年までに、温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする」という「カーボンニュートラル宣言」をなさいました。この宣言について、「表明するのが遅すぎた」という意見がある

一方、「現在の日本のエネルギー利用状況を考えれば、かなり実現が難しい」といった意見もあります。フィリップ様は、どうお考えですか。

フィリップ まず申し上げたいことは、菅総理のこの宣言は歓迎すべきであり、地球温暖化を防止するためには、様々な困難な問題があ

るとしても、必ず実現しなければならない、ということです。電力、運輸、産業など様々な分野で多額の投資が必要になると考えますが、これを単なる「コスト」と捉えずに、新たな「ビジネスチャンス」と考えるべきだと思います。環境に配慮しつつ、同時にユーザーである産業や消費者に

は、安定かつ負担にならない料金で、エネルギーを提供しないといけないと思っています。私の母国のオーストラリアなどと異なり、日本は、再生可能エネルギーを生み出す自然条件には恵まれていませんが、優れたエンジニアリング技術があります。さらに、国際的な協力や次世代に向けた革新的な技術開発を行うことにより、必ず「カーボンニュートラル」は実現できると考えています。

GPSSエンジニアリングの役割・特徴

—日本がカーボンニュートラルを目指していく中で、GPSSエンジニアリングの果たすべき役割は大きいと思います。まずは現在、御社はどのようなことをなさっているのか、ご説明いただけますか。

フィリップ GPSSグループの一員として、当社は5つのサステナブル

エネルギー事業、具体的には、太陽光、地熱、風力、中小水力及びバイオガスのプラント建設に携わっています。太陽光発電だけを行う、といった企業は数多くありますが、様々なサステナブルエネルギーの発電事業に携わる企業は、少ないと思います。当社も初めは太陽光発電からスタートいたしましたが、今後のビジネスの中心になるのは地熱、バイオガス、水力、waste to power（廃熱を使った発電）といったものになると思います。もちろん太陽光発電を止めるわけではなく、FIT制度が終了しても継続してまいります。

また、当グループの特徴として強調しておきたいのは、EPC（設計・調達・建設）を行うだけでなく、フィージビリティスタディからファイナンスの検討、さらにはO&Mまで、全てをお引き受けする、ということです。こうしたサービスには、お客様の高い満足度も得られています。当社に仕事を依頼されたお客様が、その後、

新たなお客様をご紹介くださる、という例もあります。

GPSSエンジニアリングが目指す「幸福な会社」とは

—GPSSグループの公式ウェブサイトの中に、「幸福な会社」を目指す、ということが掲げられています。具体的に、どういったことを考えておられるのか、ご説明いただけますか。

フィリップ 「幸福な会社」を目指すというのは、GPSSグループが共有する理念です。「社員が仕事で幸せを感じられない会社には、幸せな社会を実現することはできない」というのが、根本にある考え方です。GPSSグループは、エネルギー事業を通してサステナブルな社会を目指しているわけですが、その際、社員をルールで縛り付けるのではなく、社員それぞれが幸せを感じて、主体的に働くことが必要である、と考えています。当社のビジネスの根幹にあるのは、「イノベーション」です。職場内はオープンで、上下関係はほぼなく、自由にコミュニケーションできるようになっています。その環境が、新しいアイデアやイノベーションを生む、と確信しています。また、新型コロナウイルスの感染拡大により、リモートワークも導入しています。ある社員は沖縄にいて、「朝はダイビング、8時とか9時から仕事」という生活を2週間続けました。その間の仕事の効率は良く、東京に帰ってきてからも、元気で働いています。



「三光バイナリー発電所施設」へバイナリー発電機導入時の写真

日本との出会いのきっかけは「セレンディピティ(Serendipity)」

—ここで、フィリップ様ご自身のお話に移りたいと思います。まず、オーストラリアご出身のフィリップ様が、日本に興味を持たれたきっかけは何だったのでしょうか。

フィリップ 「セレンディピティ(Serendipity)」という言葉をご存じでしょうか。「素敵な偶然に出会ったり、予想外のものを発見したりすること」を意味しますが、私と日本との出会いは、まさにこれでした。高校で、たまたま日本語を勉強したのですが、あまり熱心な生徒ではありませんでした。その後大学生になり、バックパッキングの海外旅行をしようとした際、多くの人がアメリカかヨーロッパに行くので、みんなと違うことをやりたいと思い、軽い気持ちで日本に行くことにしました。でも来てみたら、知り合った日本人、日本の文化、食べ物、自然の風景が本当に好きになって、大学に戻って、真剣に日本語を勉強し始めました。たまたま私が通っていたメルボルン大学と大阪大学に提携関係があったため、日本の文部省(当時)から奨学金をいただいて、一年間大阪大学の大学院で過ごすことができました。日本人と日本の文部省には感謝していますが、その後、いただいた奨学金は、何十倍かの税金としてお返ししました。文部省としてはいい投資だったと思います。

現在の仕事を選んだ動機は、「息子に自慢できる仕事」

—フィリップ様のご経歴を拝見すると、金融関係の仕事を長くなされ

ておられますが、なぜ畑違いの仕事に転身されたのですか。

フィリップ 金融機関で約20年間働きましたが、若い頃は特に楽しかったものです。しかし、ある時「自分の仕事は、社会に貢献しているのだろうか」との疑問を持つようになりました。そして子どもが生まれ、「息子が自慢できる仕事をしたい。自分の息子を含む次世代のために、地球環境を守るサステナブルなエネルギーを普及させる仕事をしよう」と思うようになり、現在の仕事をすることを決心しました。

—そういえば、お住まいは野沢温泉とお聞きました。

フィリップ 私はスキーが趣味で、週末にはいろいろなスキー場に行っていたのですが、野沢温泉が一番気に入りました。白馬をはじめとして山がきれいなことに加えて、コミュニティとしての一体感が強くて、本当に面白いところです。また、古くから外国人スキーヤーが数多く訪れているところであり、ドイツ語を話せる豆腐屋さんがあるなど、外国人の扱いにも慣れています。



—フィリップ様の座右の銘は何でしょうか。

フィリップ 私の座右の銘は、「Taking the road less traveled」、すなわち、「他の人と違うやり方を試す」ということです。大学生時代に日本に来たのも、この精神にのっとった行動であるといえます。また、現在の仕事の関係で申し上げれば、他のエンジニアリング会社とは違う手法を試す、ということになります。新しいアイデアとかイノベーションを実施した場合、失敗もありますが、「失敗は



Phillip Richards (リチャーズ フィリップ)

1972年 オーストラリア生まれ
1996年 4月～ 大阪大学大学院 経済学研究所・経済学部 留学
1997年 3月
1997年12月 メルボルン大学商学部卒業
1998年 7月 第一勧業銀行(現みずほ銀行)入社。その後20年にわたり、メリルリンチ、ドイツ銀行、シティバンク等の有力投資銀行に勤務
同年12月 日本語能力試験一級取得
2013年 9月 ドイツ銀行東京支店のグローバル・リクイディティ・マネジメントを担当
2019年 6月 GPSSに企画室ストラテジー担当としてジョイン
同年11月 GPSSグループ GPSSエンジニアリング株式会社代表取締役



野沢温泉スキー場にて



野沢温泉の祭りで神輿担ぎに参加（前列左から2人目）

次の成功の種」と思っています。日本では、数多くのエンジニアリング会社があります。日本の大手エンジニアリング会社と同じことをやっても、当社のような新興勢力に未来はありません。例えば、海外の優れたパートナーと協力してプラントをつくるなど、新たな試みが不可欠です。お客様には完璧なプラントをお引渡ししなければなりません。その過程においては、様々な「Try & Error」

も必要である、と思っています。先ほど申し上げた通り、今後とも太陽光発電プラントも扱っていきますが、個人的には、競争相手が少なく、イノベーションが発揮できる地熱、バイオガス、水力、waste to powerといった分野に注力していきたいと思っています。

— 本日は、ありがとうございます。



インタビュー後記

リチャーズ・フィリップ（Phillip Richards）様は、日本語能力試験一級を取得されておられ、インタビューも全て日本語で行いました。大変面白いキャラクターをお持ちであり、私も楽しくインタビューをすることができました。今回は、仕事の関係を中心としたお話でしたが、野沢温泉のコミュニティ活動にも、深く関与されておられることに、感銘を受けました。

聞き手：当協会専務理事
前野 陽一



会員企業データ

社 名：GPSSエンジニアリング株式会社
事業内容：持続可能エネルギーに係る
EPC・O&M・技術開発
設 立：2012年10月
所 在 地：東京都港区芝2-5-10 芝公園
NDビル 6F
従業員数：144名（2021年4月時点）
ホームページ：<https://gps.jp/engineering/>

